



ゲリラ豪雨時の運転に注意！！

近年、毎年恒例となったゲリラ豪雨…。豪雨は視界を著しく低下させ事故にも繋がります。



先月の24日午後、関東地方の広い範囲で大気の状態が不安定になり、一部でひょうが降りました。中では、降り積もる雪のようにひょうが道路を覆い、道路の冠水や商業施設・工場の床上浸水の被害が発生しております。人的被害は少なく済んだものの、増水で浮き上がったマンホールのふたが乗用車にぶつかる事故や走行中にブロック塀の倒壊してくるなど、車両への被害については多く発生しています。そこで今号では、ゲリラ豪雨発生時の運転の注意点をお伝えします。

そもそもゲリラ豪雨が発生する原因と発生するときの前兆は？

原因 ゲリラ豪雨が増えた背景には、**地球温暖化**や**ヒートアイランド現象**などがあると考えられているのです。この雲は「**地表付近の暖かく湿った空気**」+「**上空の冷たく乾いた空気**」が**混ざること**で発生します。この雲が**発生しやすいのは夏**なので、ゲリラ豪雨も必然的に夏に多く発生します。

前兆 1.急に風が冷たくなる 2.黒い雲が発生してきた 3.雷が近くで鳴り出す

天気予報で「大気の状態が不安定」という言葉を聞いたら、注意する必要があります。まずは、空が暗くなってきたなどと感じたら**積乱雲(入道雲)の様子に注意して下さい**。さらに、豪雨に向けた対策を施しておきましょう。事前に対策をしておくことで、万が一の浸水時に被害を最小限に留めることができます。

豪雨時の自動車走行の注意事項は？

そもそも集中豪雨が予想されるときは運転を控えましょう！ 視界や見通しが悪いだけでも大変危険です。

| | |
|----------------------|--|
| かもしれない運転を心掛ける | <ul style="list-style-type: none"> ・車間距離をいつもよりあける → 前の車が水溜りでストップする“かもしれない” ・対向車の水しぶきに注意 → 急に視界をさえぎられる“かもしれない” |
| 道路周辺の地形を確認する | <ul style="list-style-type: none"> ・周辺に比べて土地が低くなっている場合、急に雨水が流れ込んでくるかもしれません。 ・トンネル、アンダーパスには要注意！ 急いでいる場合であっても迂回路を優先。 |
| 危険水位を知っておく | <ul style="list-style-type: none"> ・マフラーまで浸かると電気系統に支障をきたす可能性がある ・車体の中ごろまで水位が上がると自力でドアを開けることは困難 |

通行途中で冠水してしまった場合・道路が水没してしまった場合はどうする？

- 冠水した道路を通行する場合は低速度で！ ⇒ エンジン内への水の侵入を減らすため
- フロントではなくサイドの窓を割る！ ⇒ 脱出用ハンマーを常備し、取り出し易い場所に置いておく
- 脱出&ロードサービスに電話をする！ ⇒ 周囲の状況や現在値の確認、車の状況をできる限り詳しく説明する



～保険代理店ならではのポイント～

車両が水没した場合、車両保険に加入していれば、その損害が補償されます。ご加入頂いております自動車保険の補償内容がご不明な場合、もしくは車両保険へのご加入をお考えの方はお気軽に当社までお問い合わせください。



まずは、人命を第一優先に考え、例え急いでいる場合であっても冠水した道路より、迂回路を選択しましょう。